

男性雑誌におけるジェンダーの表象分析

～「男らしくない男／男らしい男」に通底する「男らしさ」

中央大学文学部准教授 辻 泉

1. はじめに

本研究の目的は、ファッション誌を中心とした男性雑誌の内容分析を行い、その実態を明らかにすることである。とりわけそのジェンダーに関する表象の分析を行うことを目指している。今日の日本社会では、非常に多くの種類の男性ファッション誌やライフスタイル誌が刊行されているが、他の先進社会と比べても特異な現象と考えられる。

では、そこで描かれているジェンダーとはいかなるものなのだろうか。この点について、女性雑誌研究については、厚みの有る蓄積が存在するものの、男性雑誌については、それ自体を本格的に取り上げられることは少なかった。そこで、いくつかのジャンルから横断的に対象を取り上げ、その内容の比較を行うとともに（系統別比較）、もっとも代表的なジャンルについては、創刊号からの内容の変遷についても検討を行った（時系列比較）。

2. 先行研究の検討

女性雑誌については、井上輝子を中心とする女性雑誌研究会のメンバーによる成果がよく知られているが（井上+女性雑誌研究会 1989、井上 2001、諸橋 1993、1998）、男性雑誌について、それ自体を対象として取り上げ、実態を網羅的に明らかにしたものは少ない。

例外的にイギリスでは、Benwell 編（2003）『Masculinity and men's lifestyle magazine』というアンソロジーが存在するが、その中で、Tanaka(2003)は、日本の男性雑誌の特徴について、イギリスの議論を紹介しながらまとめている。すなわち、Edwards(1997)によれば、男性雑誌の特徴は、①比較的高価で、②消費が称揚され、③都市的生活様式を前提としており、④煽りや焚きつけの言説に満ち溢れ、⑤強力なヘテロセクシャリティが羅列された内容にあるという。この点について、Tanaka は諸橋の議論も援用しつつ、おおむね当てはまってはいるものの、⑤だけが異なり、ヘテロセクシュアリティであるが、もっと流動化しているのではないかと指摘している。

3. 分析方法と対象

上記のとおり、2つの方法を採用した。（1）の系統別比較については、主要

な男性ファッション誌 11 誌の 2009 年 8 月号の全頁を対象とし、また比較対象として、同時期に発売された代表的な女性雑誌 2 誌 (『an・an (マガジンハウス)』『non-no (集英社)』) の全頁も取り上げた。(2) の時系列比較については、代表的な男性ファッション誌といえる、『POPEYE (マガジンハウス)』『MEN' S NON-NO (集英社)』の 2 誌について、増刊号などを除く、創刊号から 2009 年 7 月号までにいたる全号の表紙ページを取り上げた (前者が 747 号分、後者が 278 号分)。内容分析にあたっては、記事や表紙のテーマや広告の割合、また登場人物の属性などに注目し、カウントに当たっては、井上 (1989、2001) や諸橋 (1998) を参照した (資料ファイルをご提供いただいた諸橋泰樹氏には深く感謝申し上げたい)。

4. 結果

(1) 系統別比較については、男性ファッション誌全般について、特に次の 2 つの特徴が分かった。一つは、広告ページの割合が大きいことであり、中には女性ファッション誌を上回るものもあった。もう一つは、生き方やライフスタイルに関するページの少なさであり、その類のページが女性ファッション誌では多いことと比べて顕著な傾向であった。

(2) 時系列比較については、特に歴史の古い『POPEYE』においてその内容の変化が大きかった。とりわけテーマについては、1970 年代後半～80 年代前半は「余暇やレジャー」が多くを占め、1980 年代後半～90 年代前半は「生き方 (この場合、異性との恋愛関係)」、それ以降は「おしゃれ」と、時代によってハッキリ内容が分かれた。いわば男性のジェンダーが、外向的なものから内向的なものへと変化しつつある様子がここからも伺えよう。

5. 知見・考察

時系列比較からは、男性雑誌が時代によって大きく変化してきたこと、また系統別比較からは、表面上は多様なジャンルにあふれていることが明らかになったが、その一方で、広告の多さや「生き方」を考えるページの少なさなど、共通する問題点も明らかになった。

かつて、上野千鶴子は女性雑誌を「消費を通じた自己実現」の象徴と捉えたが、果たして男性雑誌が男性にとって同じものとなりうるのか、今後もさらに詳細な分析を進めながら、検討を深める必要がある。

<主要参考文献>

Benwell, Bethan, ed, 2003, *Masculinity and men's lifestyle magazine*, Oxford : Blackwell.

井上輝子, 2001, 「ジェンダーとメディア—雑誌の誌面を解読する」 鈴木みどり編『メディア・リテラシーの現在と未来』世界思想社 : 118-39.

井上輝子+女性雑誌研究会, 1989, 『女性雑誌を解読する—COMPAREPOLOTAN 日・米・メキシコ比較研究』垣内出版.

諸橋泰樹, 1993, 『雑誌文化の中の女性学』明石書店.

諸橋泰樹, 1998, 「日本の大衆雑誌が描くジェンダーと「家族」, 村松泰子、ヒラリア・ゴスマン編, 『メディアがつくるジェンダー—日独の男女・家族像を読みとく』新曜社 : 190-218.